

校内研修計画

甲州市立奥野田小学校

1 学校課題

奥野田小学校の学区は、果樹栽培を中心とした専業農家と兼業農家が混在し、農地をもっている家庭の割合も多い。しかし、身近に食にふれる環境があっても、それが自分の成長にどのように関わっているかなどについては意識が薄く、食生活を中心とした生活習慣が十分に備わっていない児童も見られる。

平成21～22年度には、栄養教諭が配置され食育事業を推進してきた。また、平成28年度は塩山北小学校が委託を受けた「スーパー食育スクール事業」の比較対照校として調査に協力した。その調査の中でも、また全国学力・学習状況調査の結果においても、食事の摂取の仕方・食事内容には改善の余地があることがわかっている。

整った生活習慣は、「生きる力」を根底から支える要因であり、心身の健やかな成長とともに、学力向上には欠かせない。奥野田小学校の伝統である「すあしによる朝マラソン」で体を鍛えるとともに、食育による生活習慣を改善することで「生きる力」をさらに高めていきたい。

2 研究主題

「生きる力」を育む食習慣の形成

— 学校・家庭・地域のつながりを生かして —

3 主題設定の理由

近年、社会情勢がめまぐるしく変化する中、食生活において、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、個食や孤食、朝食の欠食など「食」に関する様々な問題が生じている。飽食の時代にも関わらず、格差社会の中で十分な食事を摂取できない子ども達が増え、フードバンク・子ども食堂などの活動が活発になるなど子ども達を取り巻く「食環境」は大きく変化してきている。心身の健やかな成長、人格の形成、学習意欲の向上など「生きる力」を育むためには、このような状況の中で成長していかざるを得ない子ども達に対して、豊かな「食育」を行うことに大変大きな意味がある。

「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」のこれまでの取り組みにより、児童生徒の学習に対する意欲や生活習慣、協働的な仲間関係などは、学力を支える要素として非常に大きな意味を持つことは明らかである。さらに、食習慣を含む生活習慣の向上には、学校だけでなく家庭・地域と連携が必要である。

教育活動全体・日々の生活全体の中で、いろいろな角度からアプローチすることで子ども達の「生きる力」は高まると考え、本校の学校教育目標の具現化を目指していくために、研究主題を『「生きる力」を育む食習慣の形成 — 学校・家庭・地域のつながりを生かして —』と設定した。

4 研究の内容と方法

- アンケート調査による児童の実態把握（CFQ、BDHQ〈児童用・家庭用〉を実施・分析し児童の変容を捉える）
- 食育についての理論研究（講師を招聘しての学習会・講演会）
- 食に関する体験活動の計画・実践
- 授業実践（一人一実践・授業参観における食育授業の公開）
- 家庭・地域との連携
- Q-U調査の実施2回とK13法による分析・活用の充実

年間校内研修計画

研究主任 小河 真由美

研究テーマ	教科・領域	担当者	日程 (授業の時期)			TC要請
			月	日		
「生きる力」を育む食習慣の形成 — 学校・家庭・地域のつながりを生かして —	今年度の研究の方向性について	研究主任	4	10	①	
	今年度の研究の方向性と概要について	研究主任		26	②	
	今年度の研究の計画と組織づくり 「つながる食育」事業についての学習会・部会研究	研究主任 ブロック長	5	15	③	
	第1回Q-Uの分析 (K13法)・分析結果の共有化 授業参観における食育授業の公開について	学級担任 教務主任 研究主任 ブロック長	6	7	④	
	専門部会研究	ブロック長		21	⑤	○
	一人一実践授業の共有化・部会研究	授業者 ブロック長	7	12	⑥	
	教育課程説明会の還流報告 部会研究	各教科 各教科主任 ブロック長	8	21	⑦	
	授業研究部会ブロック研究 (Q-U分析結果に基づく取組の振り返りと2学期の取組の確認)	ブロック長	9	6	⑧	
	授業参観における食育授業の公開について	ブロック長 授業者	10	4	⑨	○
	一人一実践授業の共有化・部会研究	授業者 ブロック長		11	⑩	
	一人一実践授業の共有化・部会研究	授業者 ブロック長		25	⑪	
	第2回Q-Uの分析 (K13法)・分析結果の共有化	学級担任 教務主任	11	1	⑫	
	一人一実践授業の共有化	授業者		8	⑬	
	一人一実践授業の共有化	授業者	12	13	⑭	
	研究の成果と課題アンケートについて 部会研究のまとめ 研究紀要作成について	研究主任 ブロック長	1	31	⑮	
	研究のまとめ	研究主任		21	⑯	
	研究紀要の作成	研究主任	2	26	⑰	
	来年度へ向けて	研究主任		3	7	⑱